はだの歴史博物館　令和5年度　企画展

関東大震災、その時　秦野では。

令和5年8月5日（土）～10月15日（日）

本町四ツ角の焼け跡

はじめに

大正１２（１９２３）年９月１日に発生したＭ７．９の大地震は、関東地方を中心として大きな被害をもたらし、「関東大震災」の名で広く知られています。

令和５（２０２３）年は、この災害から１００年目に当たることから、災害の記憶を風化させないための取り組みが各地で行われています。

震源地に近かった秦野市での被害は大きく、昭和５７（１９８２）年発行の『関東大震災　体験記』（市 HP で公開中）には、当時の体験談が綴られています。

これらは今となっては貴重な回想録ですが、今回の展示では、当時の手記や記録に注目し、震災に直面した人々の姿を追っていくこととします。

前史　小田原地震

小田原地震瓦版

関東大震災の７０年前にあたる嘉永６（１８５３）年、神奈川県西部を震源とするＭ６．７の「小田原地震」が発生しています。小田原城下での建物の倒壊は１００棟を越えたものの死者は２４名とされています。

当時発行された瓦版には、被災地として本町四ツ角の旧称「十日市場」が確認できます。

江戸時代を通じて小田原付近を震源とする地震はいくつか知られており、小田原地震７０年周期説が出されたりしました。

このような瓦版は遠くの親類縁者に被害の様子を知らせるために作成されたもののようです。

本町地区の火災

関東大震災の際、秦野市域で起きた被害でまず一番に挙げられるのは本町四ツ角周辺の火災です。

大正１４（１９２５）年発行の落合政一『秦野誌竝震災復興誌』には「最初の大震から二十分ばかり過ぎた頃乳牛（ちうし）の一角にもくもくと黒煙があがった」、「土管の水道は勿論こわれている」、「魔の様な風も強く吹いている」、「僅か半時間のうちに火は乳牛から三方に燃え広がって其の一方は中道より曽屋に進み、一方はななめに中大道大安附近を襲い、残る一方は大正通りの教会あたりから上宿の中央へと焼け移ったのである」と記されています。

本町四ツ角の焼け跡

千村の記録

『秦野市史　第五巻　近代史料２』に収録されている「大正拾貳年大地震記」は、千村の石井家に所蔵されていた文書で、大正１２（１９２３）年９月１日から翌年１月３０日までのことが記録されています。

９月３日から４日にかけての暴徒

の噂に右往左往する様子など、当時の日本の世相が反映された貴重な記録です。

大正１３（１９２４）年1月１５日の丹沢地震の記述があることでも注目される資料です。

大木良の罹災

大木　良(1898-1927)

市内名古木出身の歌人、大木良は偶然郷里に帰省していた際に罹災しました。大木は所属していた「秦皮（とねりこ）詩社」の同人誌『秦皮』第６巻第１０・１１号に「罹災記」を発表しています。

名古木は市域でも被害の大きかった地区の一つですが、文芸を嗜むものならではの筆致で、一時間おきぐらいにやってくる余震、暴徒の噂などが書き記されています。

土石流が襲う

関東地震は、丹沢山塊の斜面部で大規模な土石の崩落をひき起こし、総面積の約 20%にあたる約 6,000ha の新規崩壊地が発生し、遠望すると全山が真っ白な状態に見えたといいます。

続く 9 月 15 日の暴風雨では山腹や河床に溜まった土石や倒木が山津波となって下流の河川沿岸各地に大被害をもたらしました。

菩提地区を襲った土石流

金目川上流の蓑毛や、菩提の葛葉川上流などでは土石流が耕地や人家を流し、死傷者が出ています。

水無川上流でも震災による大崩壊が起きており、豪雨によって倒木や土石が狭い谷を埋め、川筋から溢れ出ました。

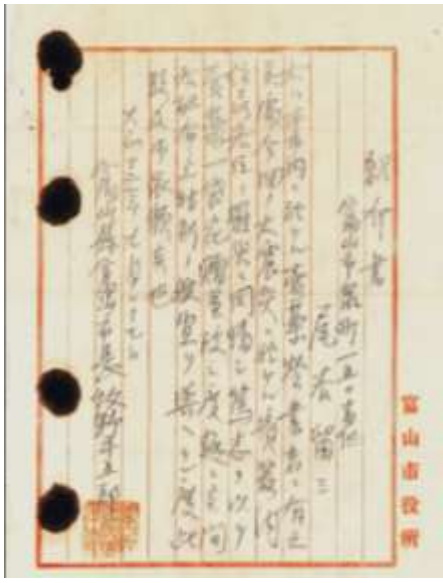
内務省では大正１３（１９２４）年度から１０年間の継続事業として「相模川外四箇川流域震災復旧砂防工事」として、費総額約５００万円のうち、２８万円を花水川流域の工事費に充て、５河川の上流に１６の堰堤の建設を計画しました。

山ノ神堰堤

現在、国登録文化財となっている

水無川上流の「山ノ神堰堤」と「猿渡堰堤」は、この工事の一環で昭和７（１９３２）年に竣工したものです。

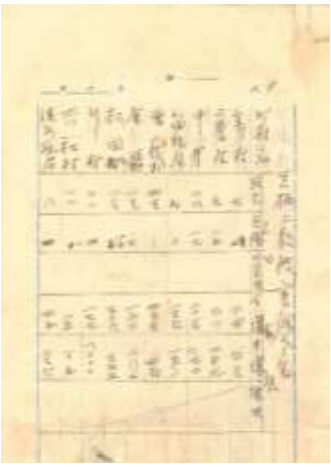
売薬商　被災地を行く



富山市役所による尾谷留三の紹介書

関東大震災の報を受け、被災地の神奈川県に向け、富山市を発った一人の売薬製造販売商がいました。尾谷久盛堂の尾谷留三です。彼は足柄上郡、足柄下郡、高座郡、橘樹郡などの郡役所に薬を寄贈すると共に、各地の被害状況を書き留めた町村被害調査や被害視察旅行日覚（備忘録）を作成しました。

いわゆる富山の薬売りということで、彼の得意先が神奈川県のこれらのエリアだったことがうかがえます。「松田町の和田屋が廃業したようだ」という記述をみると、製造販売していた消化、毒消しの「霊心」という薬の特約店の様子を見て回ることもその目的の一つだったかと思われます。



足柄上郡被害調査書

留三は富山市長の紹介書を手に、未だ不穏な状況の神奈川県下を検分しました。残念ながら秦野地域の情報は極めて少ないのですが、足柄上郡であった上秦野村の被害が書き留められています。

おわりに

震災１００年を機に、当時の生の記録を優先して紹介してきました。こうした資料は、防災・減災について考えるうえでも非常に重要なものです。

いざ災害が起きた時の備えとして、冒頭で紹介した『体験記』などに残された先人たちの声に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

発行　令和5年8月5日
編集　〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下 380－3
はだの歴史博物館　Tel. 0463-87-5542 FAX 0463-87-5794